



## 第46回「おかねの作文」コンクール

# 生きたお金の使い方

千葉県・日出学園中学校 3年 中西 郁

これまで、私はいくつかの習い事をしてきた。ピアノ、スイミング、剣道、学習塾、通信教育など。それぞれの月謝は親が負担していた。その金額がいくらだったかは知らない。私は、それらの習い事をさぼったり、練習や宿題をあまりやらなかったりしたことがある。その習い事をさせてもらうために、親がいくら払っているかは考えたことはなかった。自分のその時の感情を優先させていたのである。今思うと、なんて贅沢<sup>ぜいたく</sup>なことをさせてもらっていたのだろうと、反省してしまう。

私の家には、長い間使われていなかった父のソプラノサクソがあった。父はそのソプラノサクソを、どういうわけか、今年の春、楽器屋さんで点検に出した。点検の結果、そのサクソの保存状態はよく、約20年もの間、手入れされていないとは思えないほどであったそうだ。しかし、ところどころ部品がずれていたため、修理に出すことになった。後日、そのサクソは修理されて、吹けるようになって我が家に戻ってきた。父がなぜ急にサクソを点検に出したり、修理に出したりしたのか、私には不思議だった。父がそのサクソを売りに出すのかとも考えたほどだ。しかし、私の予想に反し、父は、私にサクソを習ってみたいかと勧めた。

そして、今年の夏休み、私はサクソの短期レッスンを受けることにした。父はレッスン料を私に出すように言った。父がなぜそう言ったのかも私にはよくわからなかった。私の貯金を当てにするほど、うちにはお金がないのかとも思った。

レッスン料を聞いて驚いた。短期レッスンという名前ではあったが、たった3回のレッスンである。レッスン料は9,000円。つまり、1回当たり3,000円である。3,000円というのは、私の月々の小遣いと同じ額だ。とんでもなく高いと思った。これは、真剣にレッスンに取り組まないといけないと感じた。





私は今もピアノを習っているのですが、楽譜を読むことはできる。しかし、サククスに関してはまるっきり初心者だった。サククスの組み立て方や、マウスピースのくわえ方、サククスの持ち方や、指の動かし方など、何もかも知らなかった。サククスの先生は私が理解できるまで、何度でもアドバイスをしてくれた。そして、私の納得できるまで何度でも練習した。

30分のレッスン時間はあっという間に過ぎ、とても充実していた。レッスンを重ねるごとに自分でもわかるくらい上達していった。私は、習い始める前、3回のレッスンが終わった時点で、音が出せるようになればいいと思っていた。しかし実際は、簡単な曲が1曲吹けるほどの技術を身につけることができたのである。

私は、3回のレッスンのいずれの時間でも、充実した有意義な時間を過ごすことができた。だからと言って、働いてもいない中学生の自分にとって、レッスン料9,000円は高くなかったとは言えない。それだけの金額を得るために、どれだけ働かなくてはならないのかを考えれば言えるわけがない。しかし、有意義なお金の使い方ができたとは言えると思う。

今回、私はサククスを吹けるようになりたいという強い思いがあった。しかし、サククスは音が大きいため、家では練習ができない。それでも、どうしてもその日先生に教えてもらったことを練習したくて、家で吹いてしまい、家族に叱られてしまった。仕方なく、マウスピースだけ口にくわえてみたり、指の動かし方だけでも練習したりした。また、音楽教室の防音室に入らせてもらい、練習をした。そして、レッスンの時は真剣に取り組んだ。こんなに前向きに習い事に取り組んだのは、自分としては珍しい。

私がこの短期レッスンに払ったお金は、とても意味のあるお金だったと思う。お金の価値を最大限に生かした使い方ができたと思う。自分から進んでレッスンを受けたこと。レッスンを受けている間、集中が途切れることなく先生に何度でも教えてもらい、練習を続けられたこと。そして、結果として、自分が思っていた以上の成果を上げることができたからである。

お金を払えば、先生は決まった時間レッスンをしてくれる。しかし、自分の意識や取り組み方次第で、レッスンの内容は大きく変わり、自分が身につけることのできる技術や過ごす時間の質も変わるものである。父は私にそういう経験





をさせたかったのだと気付いた。私は、今回の経験を大切に、これからも  
生きたお金の使い方をしていきたいと思う。

